

今後の取り組みについて

1. 今後の取り組み

(1) 地域の実情に応じた適切な公共交通の在り方について

・ 代替交通手段の検討

多数の乗降客数は期待できないことから、持続的な交通手段の確保のためには、運営コストの低い手法の中から、なるべく利用者のニーズに合うものを検討する必要がある。

地域の方々と行政、事業者が協働して交通を担っていく仕掛けが必要。

榎島地域：6日間の無料試行実験の結果、1日の平均利用者数は定期路線型(3路線)で約40人、デマンド型で約80人。



試行実験の結果をもとに、実情に合った運行形態について地元と検討。

小倉・伊勢田地域：地元のニーズを正確に把握し、適切な交通手段を検討する必要がある。



地元自治会に協力を要請し、地域に対してアンケート調査を実施予定。

(2) 公共交通の利用促進の取り組みについて

・ 全市的な利用促進・啓発活動

「市政だより」によるバス利用促進の広報
「にぎわいフェスタ」での啓発活動

・ 実証実験路線の地元への働きかけ

路線バス乗降調査の情報提供を定期的に行い、地元組織と連携しバス利用の意識を高める。
地元ヒアリングを行い、必要に応じて、ダイヤの見直しを検討する。

2. 進め方(案)

